

文化服装学院 学校関係者評価委員会 報告書

文化服装学院 自己点検・評価委員会

平成 26 年 9 月 9 日

目 次

1. 報告書骨子	2
2. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価 に対する総評	3
3. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価 の重点評価項目への提言	
1) 課程及び学科の教育理念、人材育成像の明確化	3
2) キャリア教育、キャリア支援、進路・就職への対策	4
3) 退学者への対策と学生募集広報の検討	5
4. 学校関係者評価を受けて	6
学校関係者評価委員会開催日程	7

1. 報告書骨子

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、文化服装学院学校関係者評価委員会規程に基づき、平成 25 年 4 月 1 日に設置した。文化服装学院（以下、本学院）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。

当委員会は、本学院の自己点検・評価を資料として、自己点検・評価委員会の内部評価を参考にし、さらに関係教職員との具体的な意見交換等を通して、本学院の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。当委員会委員は外部委員のみで構成され、本学院の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から学院長が選考し、委嘱している。委嘱された委員は下記のとおりである。

平成 26 年度は、平成 25 年度の自己点検・評価報告書を資料として、当委員会としての評価・助言を取りまとめ、本報告書を作成した。本報告書に記載した評価・助言は、具体的な事項であり、より本学院の発展に資するという考え方に則り、過度に要約することなく記載している。

本報告書の作成にあたり、当委員会の委員の方々には、お忙しいところご尽力いただき、改めて深く感謝申し上げます。

記

委員長	徳岡敬也（株式会社トークス 代表取締役）
副委員長	芦川照和（SUN デザイン研究所 プロデューサー ・ 本学院卒業生）
委員	山内 誠（一般財団法人日本ファッション協会 企画事業部 部長）
委員	中村善春（（株）織研新聞社 事業局長代行 JFW-IFF/PLUG IN 事務局長 アッシュ編集室長）
委員	澤田勘志（株式会社 MORI パーソネル・クリエイツ 代表取締役副社長）
委員	磯貝章弘（株式会社東京ソワール 常勤監査役）

以上

2. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価に対する総評

文化服装学院は日本を代表するファッション教育機関として高い教育目標を掲げ、その目標へ向かい概ね的確な取り組みがなされている。ファッション業界における職種に連動した多岐にわたる学科が体系的に設置され、カリキュラム内容も充実している。

教育内容、レベルの設定、到達目標の平均レベルの上昇を目指した教育を行うのか、個々の個性を伸ばすことを重視した教育を行うのか、学生数の面でも日本を代表する専門学校であるがゆえ、そのバランスの難しさを感じる。しかしながら、文化服装学院だからこそ個性や感性を生かした懐の深さを感じさせる教育の実施を望む。

新たなビジネスの前提となるグローバル化は特に留意し推進してほしい。留学生の確保はもとより、キャリア支援も重要となる。日本人学生においてもビジネスのフィールドは日本に留まることはないため、グローバルビジネスに対応できる人材の育成を期待する。

文化服装学院は創立 90 周年を超え、ファッション業界で活躍する卒業生は多数おり、卒業生はまさに宝である。その財産が学校運営、教育活動に十分に生かされているとはいえない。学生のキャリア支援、実践的な教育、広報活動など幅広く活用されるシステムの構築が必要である。

卒業生をはじめとする業界で活躍する方々による講義などは、課程や専攻を越えて広く学生に提供されることが望ましい。大人数での受講が難しい場合は、収録しビデオ聴講の形態とすることも良い。受講することにより多角的な視点で仕事への理解を深めると共に、就労の意義を理解することへもつながると考える。

若者の気質の変化や修学歴の多様化、コミュニケーション能力の低下など社会が抱える問題を真摯に受け止め、日々学生指導に尽力していることがうかがえる。

今後はより一層文化服装学院としての個性と各課程及び学科の特色を明確に打ち出し、産業界との連携を強化し時代に即したカリキュラムの開発を進め、「世界に通用する」だけでなく、「世界から目指される」教育機関として日々努めていただきたい。

3. 学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価の重点評価項目への提言

平成 25 年度自己点検・評価において本学院が重点項目として掲げている 3 項目について委員からの提言は以下の通りである。

1) 課程及び学科の教育理念、人材育成像の明確化

[本学院の現状]

平成 25 年度に実施した自己点検・評価並びに学校関係者評価委員会からの評価においても、4 分類ある課程、さらにそこに含まれる細分化された学科ごとの教育

理念、人材育成像が明確でないものがあるとの指摘を受けた。この点を改善すべく本年度これらを整理し明確化に努めた。しかしながら、改善はみられるものの、まだ曖昧な点も残っている。

[学校関係者評価委員からの提言]

- (1) 服装造形を中心に学ぶ服飾専門課程とファッション工科専門課程との違いが見えにくい。3年間の就学を検討している入学対象者にとっては選択に迷う。
- (2) 流通部門を学ぶファッション流通専門課程は1年次を一元化したことにより、2年次の職種に連動したコースでの学びの目的がわかりやすくなった。
- (3) 布地および服飾雑貨制作を学ぶファッション工芸専門課程は職種と連動し概ね明確化されている。
- (4) 一方で、時代性に対し各課程・学科で共通して必要となる事項は存在するため、完全なる差別化を図ることは困難である。
- (5) 現在の課程の枠組み、評価基準などにとらわれない個々の個性を伸ばす課程や学科の創設を望む。

2) キャリア教育、キャリア支援、進路・就職への対策

[本学院の現状]

学生が就職という形で社会へ送りだしていくことは専門学校の使命である。学生が就職できるよう日々様々な技術教育とキャリア教育を手法を駆使し展開している。就職率は徐々に上昇しているものの、本学院の学生数を考えると一層の取り組みと更なる改善が必要と認識し、本学院の重要課題の一つとしてとらえている。

[学校関係者評価委員からの提言]

- (1) 現時点においてはキャリア教育、キャリア支援は適切に行われているように思われる。今後は変化する時代、業界に常に対応していく体制が必要である。
- (2) 社会情勢や就学者の多様な事情を踏まえて考えるならば、現状の取り組みは概ね適切であるが、学内では大変厳しく評価をしている。
- (3) 会社組織で働くことを意識し、タテ社会でのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を図ることは重要である。
- (4) インターンシップを就職へつなげていくシステムの構築が必要である。
- (5) 就職環境の悪い年であっても確実に80%の就職率を保守できるネットワークの構築が必要である。
- (6) 高い就職率を保持するということは“スキル”である。そのためのノウハウの研究を組織として行うべきである。
- (7) 学生が就職活動を進めるにあたり「好きなブランド＝自分にとって最適な職場」とはならないことを日頃から丁寧に説明する必要がある。

- (8) 就職率だけをみるのではなく、学生が求めていた職種、企業へ就職できたのかどうか、その後の離職率はどのようになっているのかを調査分析する必要がある。

3) 退学者への対策と学生募集広報の検討

[本学院の現状]

学生確保は重要な課題である。本学院の退学率は専門学校の中では低いものの、常に対策を取って行く必要があると認識している。

学生募集のための広報活動は教職員一丸となり取り組み、様々な新しい取り組みを試みている。18才人口が減少していくなか、ファッション分野を目指す生徒数はそれ以上の減少率となっている。現状決め手となる対策はなく、地道な活動が続いている。

[学校関係者評価委員からの提言]

- (1) ファッション業界の仕事・職種において、デザイナー以外の職種や役割については十分に理解されているとは言い難い。パタンナーやマーチャンダイザーなど他にも様々な仕事が存在していることを周知することにより、入学後の不一致や進路変更による退学を軽減させると共に、入学層の広がりにもつながる。
- (2) 「お仕事ブック」のビデオライブラリーを制作しホームページに掲載する。ファッション業界の仕事・職種の周知に有効な手段であると考える。
- (3) 在校生の満足度を上げる工夫が必要である。在校生にとっては、学ぶ楽しさ、ファッションへの夢や希望が広がることが退学の歯止めになる。また、学生はその満足度を自ら発信するため、情報が共有されることによる影響は非常に大きい。
- (4) ファッション業界を志向する若者の減少は専門学校だけの問題ではなく、企業にとっても大きな問題である。産学ともに若い世代にファッションの楽しさ、やりがいなどを伝えていく必要がある。
- (5) 人口減少、グローバル化などあらゆる状況から判断して留学生の受け入れにより一層力を注ぐべきである。

4. 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価委員会の委員各位には、ご多忙の中委員をお引き受けくださり心より感謝申し上げます。外部の方々から学校運営ならびに教育活動に関し具体的な評価を頂戴することは今回で二度目となります。今回もファッション業界における製造部門、人事部門、メディア部門、プロデュース部門等の皆様から多岐にわたり、幅広い視野での提言を頂戴することができ、改めて外部評価の重要性を痛感しております。また、日ごろの文化服装学院の教育活動に対し、賛同と高い評価いただき大変ありがたく存じます。

平成 25 年度文化服装学院自己点検・評価における重点項目としました、「課程及び学科の教育理念、人材育成像の明確化」、「キャリア教育、キャリア支援、進路・就職への対策」、「退学者への対策と学生募集広報の検討」については、今回の重点項目に留まらず、職業教育を担う本学院を継続していくうえでは永遠の課題であると考えております。これらの課題に対し委員の皆様方から頂戴した提言を真摯に受け止め、教職員一丸となり一つひとつ課題を解決し、ファッション業界を牽引する人材の輩出に取り組んでいく所存であります。

また文化服装学院では創立 100 周年を見据え、永続的に教育活動を行っていくための様々な分野における再構築に踏み出しております。今回頂戴したご意見はそちらにも生かさせていただく所存です。

今後とも自己点検・評価ならびに学校関係者評価を継続し取り組んでまいりますので、皆様方のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご尽力いただきました委員各位には改めて深く感謝申し上げます。

学校関係者評価委員会開催日程

第一回

平成 26 年 7 月 28 日（月）15：00～16：30

文化服装学院 C 館 4 階 C041 会議室

出席者（敬称略・順不同）

委員：徳岡敬也、芦川照和、山内誠、中村善春、澤田勘志、磯貝章弘

オブザーバー：小杉早苗、辛島敦子、野中慶子、平野栄子、宮原勝一、

酒井英実、山田とし子、渡井邦重、伊藤望、窪田朝菜、

横倉孝、須藤久栄、石崎克典、増田恵一、

吉野真文、小林克也、古澤直子

配布資料：平成 25 年度文化服装学院自己点検・評価

同 内部委員による報告書

学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価表

第二回

平成 26 年 9 月 9 日（火）17：00～18：30

文化服装学院 B 館 4 階 B044 会議室

出席者（敬称略・順不同）

委員：徳岡敬也、芦川照和、山内誠、中村善春、澤田勘志、磯貝章弘

オブザーバー：小杉早苗、辛島敦子、野中慶子、平野栄子、宮原勝一、

酒井英実、山田とし子、渡井邦重、伊藤望、窪田朝菜、

横倉孝、須藤久栄、石崎克典、増田恵一、

吉野真文、小林克也、古澤直子